

# 日本海西南海域における底魚研究

## イカ類の種類別漁獲統計 (第3報)

田中伸和, 今岡要二郎

日本海西南海域における2そうびき沖合底曳の漁獲量は若干の増加傾向にあった。この増加は前報までに述べたように、イカ類の漁獲増に依存することが大きかった。しかし、総漁獲量は1974年には、イカ類の漁獲減により、1973年と比べ約6,600トンの減少がみられた(表1, 図1)。一方浜田港においては総漁獲量は1969年から1970年にかけて、大巾に減少したが、その後イカ類の漁獲増にささえられて横ばい状態を示していた。しかし、'74年には、イカ類の漁獲減により'66年以降最低の25,000トン台を示した(表1, 図1)。

1974年の2そうびき沖合底びきのイカ類漁獲状況を前報までと同様な方法で月別に検討したので報告する。

表1 全2そうびき沖合底曳網と浜田港2そうびき沖合底曳との漁獲統計

(トン)

	'66	'67	'68	'69	'70	'71	'72	'73	'74
全2そうびき 全漁獲量	41755	43112	43041	43680	42827	44350	45766	46851	40214
浜田港水揚 全漁獲量	31195	31279	30382	31061	27333	26909	27230	27312	25599
全2そうびき イカ類水揚	4068	4858	5944	6215	6962	8365	10085	11528	7934
浜田港水揚 イカ類水揚	3297	3547	4533	4672	4812	5425	6213	8034	5222

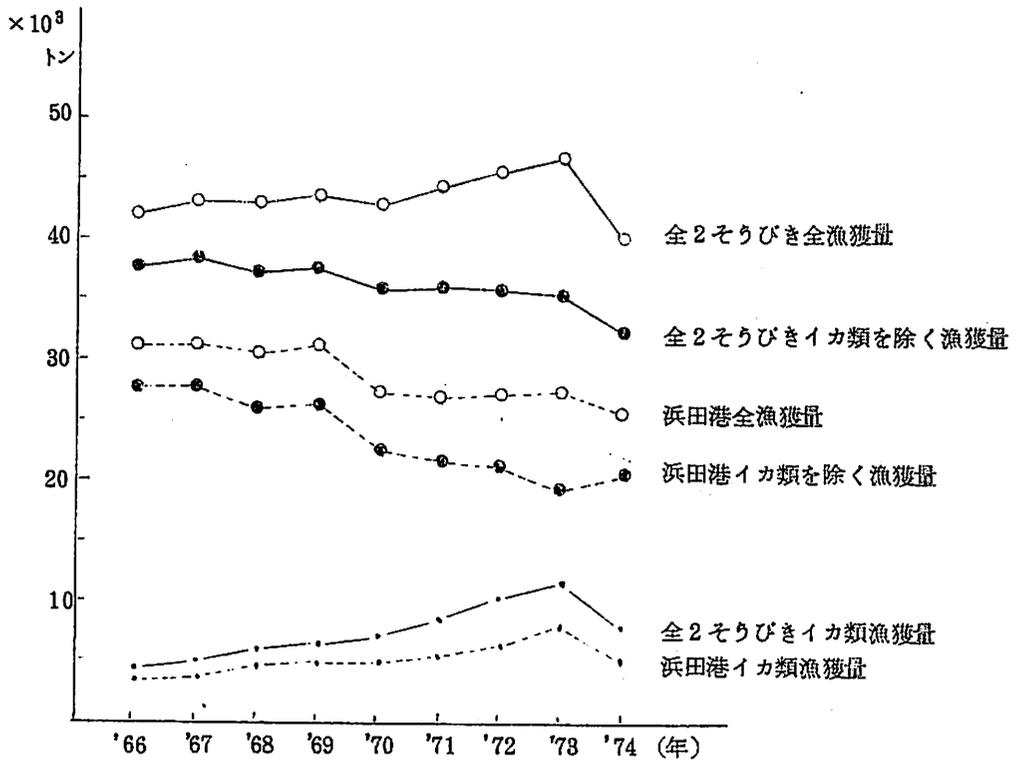


図1 沖合2そうびき底曳網漁獲量

## 結 果

種類別に漁獲量の年変動をみると、図2に示すようにイカ類の中で一番比重の大きいヤリイカは1973年まで飛躍的な増加を示していたが1974年には約42%の減少がみられた。これはイカ類漁獲量の減少の約70%を示している。コウイカ類は1969年をピークにしてやや減少傾向を、ケンサキイカ類では前期と比べ漁獲が減少したが低位に安定した漁獲を示している。また、スルメイカは1971年以降わずかに増加の傾向を示している。しかし、ヤリイカを除くこれらの種類は量的に少なく、比較的安定した漁獲を示しており、最近のイカ類の大巾な変動はヤリイカの漁獲量の増減によるものであり、近年における2そうびき底びき網の漁獲量に大きな影響を与えていることが前報までの結果とあわせて明らかになった。

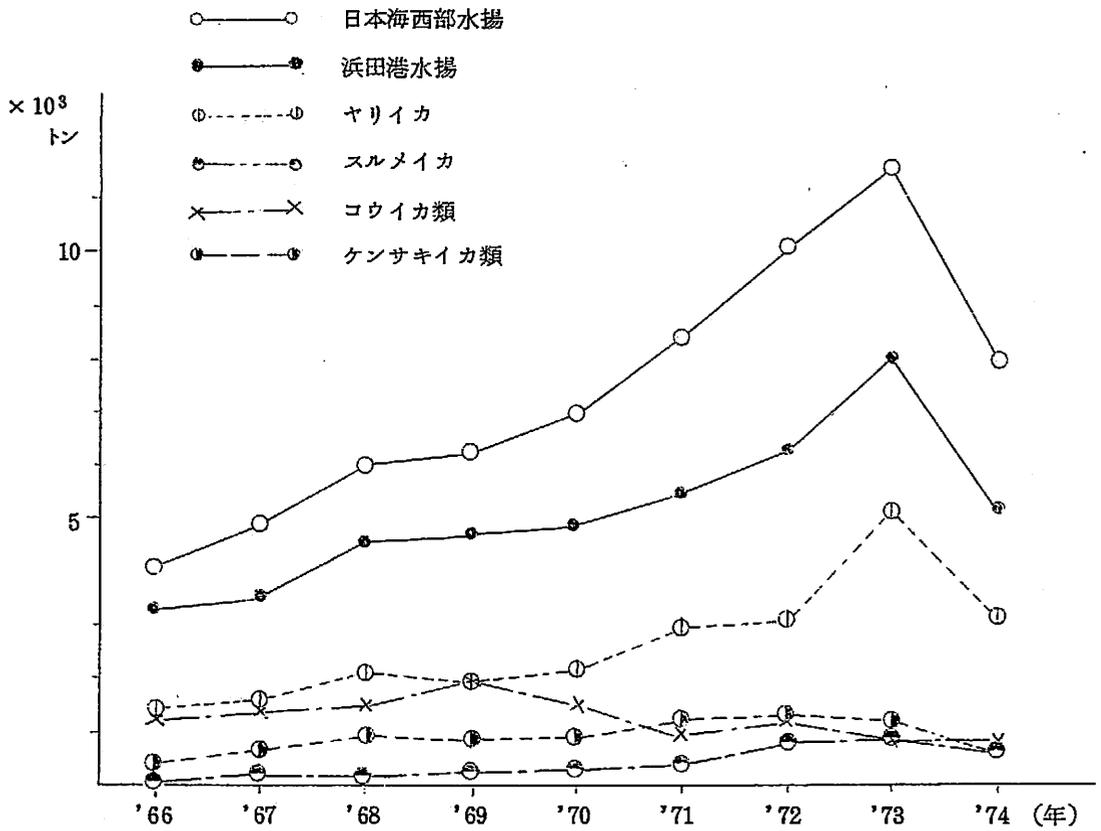


図2 イカ類年別漁獲量 (沖合底曳網)

種類別、月別漁獲量は図3に示すように、ヤリイカは前年同様10～2月に集中して漁獲され、全漁期の本種漁獲量の92%をしめ、イカ類全漁獲量の約55%をこの期間だけで水揚げしている。スルメイカは4、5月に夏生まれ群の漁獲が多く、他種よりも高い値を示した。ケンサキイカ類は5～9月に比較的漁獲が多く、例年春～秋に他種より漁獲が多い傾向を示す。コウイカ類は例年どおり3、4月にピークがみられたが、10～12月に比較的安定して漁獲がありこの結果年間漁獲量が若干増加している。

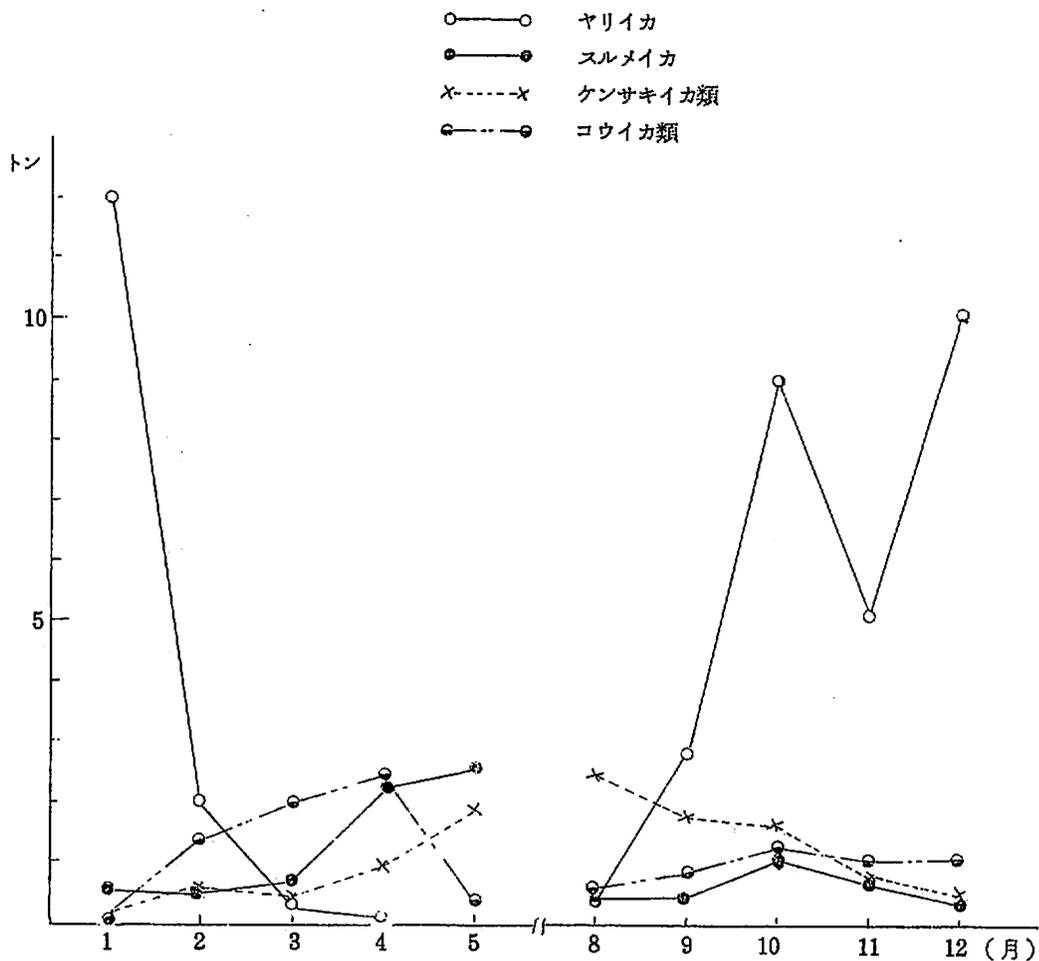


図3 入港統数当り月別漁獲量(1974年)

### 要 約

前年に引き続き浜田港に水揚げされる2そうびき沖合底びき網漁業の漁獲物中イカ類のしめる割合と種類別漁獲量を浜田港魚市場の現場帳から集計を行った。

その結果、イカ類は前年に比べ約2,800トン(35%)と大巾に減少した。これはヤリイカが前年に比べ42%もの減少をしめたことによる。

また、第1報、第2報の調査結果とあわせてイカ類の漁獲量の増減が2そうびき沖合底びき網漁獲量に与える影響は大きく、とくにヤリイカに対する比重が大きいことが明らかになった。